

大学入学共通テスト導入に向けた試行調査 国語について

1. 試験の概要について

- ・受検者は高校二年生以上の六四、五〇〇名。
- ・試験時間は一〇〇分（センター試験から二〇分増）。
- ・大問数は5問「記述・評論・小説・古文・漢文」。記述式の大問が新たに追加された。記述式以外の4問はマーク式で、基本的な科目構成はセンター試験から変更無し。
- ・記述式問題では、実用的な文章と、それに関連した資料・会話文から、必要な情報を読み取り、条件に合わせて解答をまとめる問題が出題された。
- ・マーク式問題では、本文と関連する図表・写真とを照らし合わせて解く問題や本文に傍線が引かれていない状態で内容を読み解く問題など、従来より「思考力・判断力」を問うことを意図した設問が見受けられた。

2. 各大問の内容について

第1問（記述）

実用文「生徒会部活動規約」・関連資料「アンケート・校内新聞」・会話文を用いた問題。小問3問（五十文字以内、二十五文字以内、八〇〜一二〇文字以内）。

- ・素材の数は多いが、設問レベルとしては、モデル問題例よりも易しい。
- ・文章や資料の情報を正確に読み取れるかどうか以上に、会話文の文脈の読み取りに主眼が置かれていた。
- ・問3のように記述字数の多い設問では、解答を定めきるに必要十分な問いであるかどうか、正答条件で正しく自己採点ができるかが問題となる。大学入試センターの公表結果では、約3割の生徒が自己採点と実際の結果が一致していなかった。

・実用文+資料+会話文という出題形式は、二〇

一七年五月に公表されたモデル問題例の出題方針と同じ。今後もこの形式が踏襲されることが予想される。

第2問（評論）

図表や写真を含む論説文「宇杉和夫」路地がまちの記憶をつなぐ」を読み解く問題。小問5問。

- ・従来のセンター試験と異なり、本文に傍線が引かれておらず、部分を細かく読むよりも全体をおおまかにとらえる力を見たいという出題者の意図を感じた。
- ・本文と各資料との対応関係が明示されていないため、丁寧に本文をたどって、解答の根拠を見つけることが求められる。
- ・選択肢が短くなっており、設問自体は従来のセンター試験の評論よりも易しいが、文章の論理が不明瞭で読みにくく解きにくい。
- ・「文章読解」というよりも「情報処理」の問題に近い。特別な力よりも、まず慣れが必要。

